

職業病とは?

働いていると、何らかの理由で職業病を患ってしまうことがあります。職業病とは、労働条件や環境など業務のなかで発生してしまう病気やケガのことです。

① 業務上の負傷による疾病

仕事の途中でケガや病気になってしまった場合



② 物理的因子による病気

紫外線や放射線、著しく寒い・暑い場所など

③ 身体に過度の負担のかかる作業態様による病気

重労働による筋肉や関節の病気、作業姿勢によって生じた首肩痛・腰痛など



④ 化学物質が原因の病気

アレルギー症状など

⑤ 粉じんを吸い込むことによって発症する病気

じん肺など

⑥ 細菌やウイルスが原因の病気

新型コロナウイルス感染症など

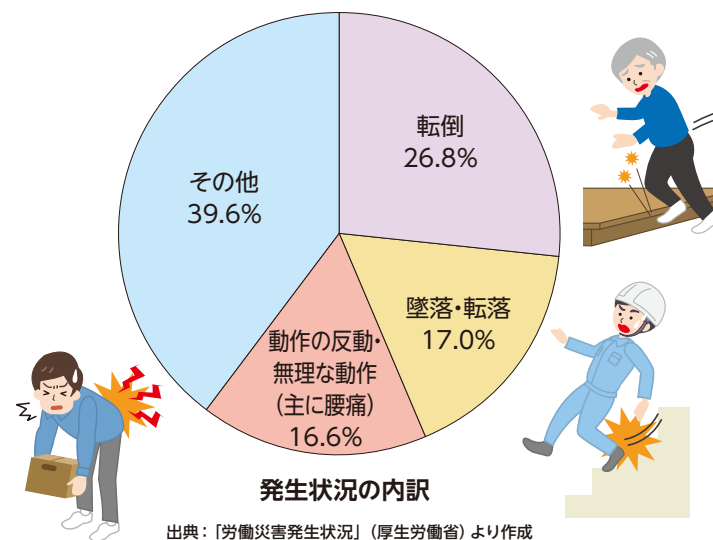
⑦ がん原性物質による病気

作業で使用する発がん性物質によって発症する病気

⑧ 長時間労働による病気

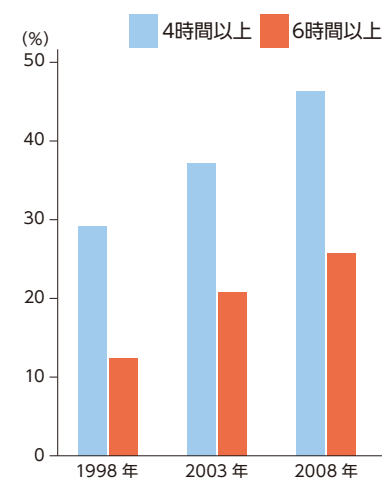
メンタルヘルス不調、過労死など

職業病の発生状況



職業病の発生状況は、転倒、墜落・転落、動作の反動・無理な動作で半数以上を占めています。

また、テレワークの普及により『VDT 作業関連疾患』も急増しています。『VDT』とは、Visual Display Terminals の頭文字を取ったものです。具体的には、ディスプレイ、キーボード等により構成されるコンピュータ出力装置の一つで、文字や図形、グラフィック、動画などを表示します。『VDT 機器』を使用して、データの入力・検索・照合等、文章・画像等の作成・編集・修正等、プログラミング、監視等を行う作業を『VDT 作業』といいます。



1日のVDT作業時間と作業者の割合

出典:産業保健21(労働者健康安全機構)第89号より引用

